

銃  
火

鶴  
野  
学



島	武	入
田	智	間
（	（	（
2	2	2
8	8	8
）	）	）
・	・	・
・	・	・
・	・	・
入	入	薬
間	間	物
の	の	密
ボ	ボ	売
デ	デ	業
イ	イ	者
ガ	ガ	
丨	丨	
ド	ド	

○ 駅前（夜）

駅から吐き出される人々。日向圭吾（35）、その中から歩きながら出てく

る。日向の携帯が鳴る。

日向「（携帯に出る）・・・」

電話口は遠藤リサ（21）。

リサの声「日向？」

日向「どうした」

リサの声「仕事の話があるんだけど。やる？」

日向「前から期間が開いてない」

リサの声「そりゃあ、そうだけど。簡単な仕

事なのよ」

日向「他を当たれ（携帯を切ろうとする）」

リサの声「待って待って！お願い。本当に簡

単な仕事なの。いつも、アంతタの願いを聞

いてあげてるでしょ」

日向「ため息を吐き）何すればいい」

リサの声「運転」

日向「取り分8..2なら行ってやる」

リサの声「馬鹿言わないですよ。6…4でしょ」

日向「他を探せ」

リサの声「分かったわよ！7…3で」

日向「場所を送れ」

携帯電話を切り、ポケットに入れる。

○ビル・外観（同）

街外れのビル。殺風景。

○同・ビル・一室（同）

伏見玲央（21）、汚れたソファに座

り、イヤホンでクラシック音楽を聴き

ながら文庫本を読んでいる。

男性「くぐもった叫び声」ううおおお！

伏見、イヤホンを外し、文庫本を脇に

置くと声がした方へ歩く。

部屋の隅で、下着姿の男性（24）、口

に布を詰められ、後ろ手に縛られ座っ

ている。  
その脇に下着姿の女性（21）、パンツをはぎ取られ、横たわっている。  
安西（22）、脱いだズボンを履いてい  
る。寺沢（20）、ズボンを脱ぎだす。  
高橋（21）、下着姿の男性の髪を掴み、  
下着姿の女性の姿を見せる。  
成沢（21）と木村（22）は、金属バ  
ットで遊んでいる。  
伏見、下着姿の男性の前に視線を合わ  
せる。口に詰められた布を外す。  
下着姿の男性「もう勘弁してくれよお！」  
伏見「仕方ないじゃん。お前が悪いんだよ」  
寺沢「次は俺の番だからよく見てろよ」  
伏見、下着姿の男性の口に布を詰め込  
む。  
下着姿の男性「くぐもった声」むううう！  
伏見の携帯が鳴る。ソファに歩き出す。  
伏見「携帯に出る」もしもし「  
電話口は斎藤（29）。

斎藤の声「伏見。そっちはどうだ？」

伏見「うまくやっってるよ。もう楯突くことは

ないよ」

斎藤の声「そりゃ良かった。もう一仕事し

てほしいんだが」

伏見「疲れたから休みたんだけど」

斎藤の声「おい、調子に乗んなよ。誰のおか

げで好きな事出来てんだ」

伏見「・・・分かったよ。やるよ」

斎藤の声「俺のシノギを狙って奴がいる。俺

の金を守れ」

伏見「場所は？」

伏見、安西と目が合い、手招きする。

伏見「はいはい（携帯を切る）」

安西「どうした」

伏見「仕事」

安西「マジかよ。酒飲みたいよ」

伏見「車回せ」

安西「（下着姿の男女を指し）あいつらどうす

るよ」

伏見「足の腱切って転がしとけばいいよ」

安西「寺沢！車回せ。仕事だ！」

○路肩（同）

日向、路肩に停められた白いバンに近づく。運転駅のドアをドンドンと叩く。

ウインドウが下がり、黒川（40）が顔を出す。

黒川「何だ？」

日向「運転に来た」

黒川「日向を舐め回すように見て」聞いてた奴と違うが」

日向「呼ばれて来ただけだ。必要ないなら帰るぞ」

黒川「乗れよ」

黒川、バンから降り、助手席に移動する。日向、運転席に乗る。

○白いバン・車中（同）



後部座席に滑川（42）、金城（38）、

坂東（36）が座っている。

黒川、助手席に乗り込む。

黒川「出してくれ」

○同・路肩（同）

白いバンが動き出す。

○ビル・加藤金融前（同）

白いバン、ビル群に挟まれている加藤

金融の看板が見えるビルの前を通り過

ぎる。

○同・白いバン・車中（同）

黒川、加藤金融の看板を指し、

黒川「あそこを狙う。一周してくれ」

日向、運転をしながら、伏見達6人が

ビルに入っていくのが見える。

日向「中には何人いる？」

黒川「この時間は一人しかいない。〔滑川を

指し〕こいつが調べた」

滑川「ヤクザに金を献上してんだよ」

金城「誰かビルに入っていったぞ」

黒川「何人入った」

金城「5・6人」

黒川「参ったな」

日向「大丈夫か？」

滑川「何が？」

日向「成功率が下がる」

坂東「何だ？ 数学者かよ」

日向「・・・好きにしろ」

黒川「やるしかないだろ。〔後部座席に〕な

あ

金城「このまま帰れるかよ」

黒川「〔日向に〕続行だ。一周したらビルの前

に停めろ」

○ビル・加藤金融・エントランス（同）

伏見、エレベーターの扉が開き、伏見

達が下りてくる。

加藤金融と書かれたドアを開く。

○同・加藤金融（夜）

加藤（50）、伏見を見ると椅子から立ち上がる。

加藤「斎藤さんの所の若手か？ 待ってたぞ」

伏見「狙われてるの？」

加藤「ヤクザの金を狙うなんて狂ってるよ」

伏見「渡すアタも同じだよ」

加藤「ああ？」

伏見「早く用意しなよ」

安西「手伝いましたようか？」

加藤「何だ？ お前ら」

伏見「斎藤の頼みで来てるだけだから。勘違

いしないでよ」

伏見、応接用のソファに座る。

伏見「帰ってもいいですよ」

加藤「舌打ちする」

加藤、金庫を開き、金をバッグに詰め

る。

○同・ピルの前（同）

白いバンが停まる。

○同・白いバン・車中（同）

黒川、ダッシュボードから4丁の拳銃

を出し、滑川、金城、坂東に渡す。そ

れぞれスキー帽を被る。

黒川「アンタは車で待ってる。これで連絡す

る」

黒川、日向に携帯電話を渡す。

日向「連絡がなかったら置いてくぞ」

黒川「連絡はする」

黒川、滑川、金城、坂東、車を降りる。

○同・ビル・加藤金融前（同）

黒川、滑川、金城、坂東、ビルへ入っ  
ていく。

○同・加藤金融（同）

加藤、金が詰まったバックを伏見の前  
に置く。

加藤「用意したぞ。さっさと持っていけ」

伏見「（バッグを見て）何？」

加藤「金だよ。持って行けよ」

伏見「金は自分で持っていくんだよ。俺はア

ンタのパシリじゃないし」

加藤「は？」

伏見「護衛するようにな頼まれてるだけだから」

安西と高橋、加藤の肩を掴み、

高橋「さ、行きましよう」

ドアが開く。

黒川、滑川、金城が拳銃を構え、入っ

てくる。滑川、天井に向けて一発撃つ。

黒川「全員動くなよ！」

寺西、持っていた金属バットを振り上げ、金城、寺西の口に銃身を入れる。

金城「動くな、つつたろ」

黒川「全員、ズボン脱いで寝ろ」

黒川、安西のこめかみに銃を向ける。安西、ズボンを脱ぎ寝そべる。寺西、

高橋、成沢、木村、ズボンを脱ぐ。

伏見「ねえ」  
伏見「どうなるか分かってる？」

黒川、木村の足を撃つ。

○ 同 ・ 白 い バ ン ・ 車 中 ( 同 )

日 向 、 銃 声 を 聞 き 、 エ ン ジ ン を 掛 け る 。

○ 同 ・ 加 藤 金 融 ( 夜 )

木 村 、 血 を 噴 き 出 し 倒 れ る 。

木 村 「 痛 て え え え え ！ 」

黒 川 「 良 く 聞 こ え な っ た 。 も う 一 遍 言 っ て み

ろ 」

伏 見 「 す げ え 」

伏 見 、 寝 そ べ る 。

加 藤 「 く そ お お ！ 」

加 藤 、 滑 川 に タ ッ ク ル す る 。

滑 川 「 う お 」

滑 川 、 倒 れ 拳 銃 を 落 と す 。

加 藤 、 部 屋 か ら 出 て い く 。

黒 川 、 滑 川 を 立 た せ 、

黒 川 「 追 い か け ろ ！ 」

滑川、拳銃を拾わずにそのまま部屋を

出る。伏見、落とした拳銃を目で追う、

黒川、携帯を出し、電話を掛ける。

黒川「携帯に」下に逃げた」

○同・白いバン・車中（同）

日向、携帯を切り、

日向「俺に言うな」

日向、白いバンから降りる。

○同・加藤金融（夜）

黒川と金城、拳銃を伏見等に向けなが

ら、

黒川「金城に」出るぞ」

黒川、寝そべっている伏見の後頭部に

銃身を押し付け、

黒川「しばらく寝てる。死にたくないだろ」

伏見「その銃くれよ」



黒川と金城、部屋から出ていく。

○同・ビル・加藤金融エントランス（同）

加藤、エレベーターのボタンを連打する。

エレベーターの扉が開く。

滑川の声「待て、こらあああ！」

加藤、エレベーターの乗り、閉のボタン

を連打。

滑川の目の前でエレベーターの扉が閉

まる。

滑川「くそおおお！」

○同ビル・エントランス（同）

日向、伊達メガネを掛け、ビルに入る。

エレベーターの表示を見る。1階に向

かっている。

坂東が裏口から入ってくる。

坂東「何でいんだよ」

日向「呼ばれた。逃げたらしい」

坂東「誰が」

日向「知るか」

坂東「銃を向け」言い方に気を付けろよ」

エレベーターの扉が開く。

加藤、バッグを抱えるように持ち、奥

に座っている。

日向、加藤の顔を殴る。

○隠れ家（同）

日向、前の机に100万円の束が2つ

投げ置かれ、札束を上着のポケットに

入れる。

机を囲むように立っている日向、黒川、

滑川、坂東、金城。

黒川「アンタには助けられた。少し色を付け

た」

坂東「そんなにやる必要はないだろ」

黒川「取り分は俺が決める。文句言うな」

坂東「俺に連絡すれば良かった。ただろ」

黒川「連絡手段がなかった。ただろが」

金城「さっさと金を分けな。いか。幾ら入って

黒川「200万。その前に銃を出せ。処分

する」

黒川「滑川に。お前の銃は？」

滑川「車に置いてきた」

日向「滑川に近づく。」

日向「車を調べたが、拳銃はなかった」

黒川「本当か？」

日向「どこにやった」

滑川「滑川、机に置かれた拳銃を取り、日向

滑川「うるせえな！いちいち！」

滑川「机に置かれた2丁の拳銃を取り、

ズボンに挟む。

黒川「もう金は手に入れたんだ。落ち着けよ」

滑川「(黒川に拳銃を向け)一人500ぼっち

じゃ、借金返せねえよ！」

滑川、金の詰まったバッグを取る。

黒川「やめろ。殺したくない」

滑川「やってみろよ」

金城「何があっても見つけてやるよ」

ドン！

滑川、金城の肩を撃つ。

金城、倒れる。

滑川、拳銃で室内を無茶苦茶に撃つ。

ドン！

ドン！

ドン！

その場に伏せる日向、黒川、坂東。

滑川、走り出ていく。

黒川「坂東！追え！金城！動けるか！」

金城「撃ちやがった！痛てえよ」

坂東、滑川を追う。

黒川「アンタも手伝えよ」

日向「やるしかないだろ。あいつの事は前か

ら知ってるのか？」

黒川「今回が初めてだった」

日向「滑川が失くした拳銃の事もある。使わ

れたらマズい」

○同・加藤金融（同）

斎藤、来客用のソファに座っている。

前には、伏見、安西、高橋、寺西が立

たされている。

斎藤「どうなってるんだ？一体」

加藤、腫れた顔を氷嚢で冷やしなが

ら、

加藤「こいつら、何の役にも立ちませんでし

たよ！」

斎藤「加藤さん。少し黙ってもらえますか？」

加藤「すみません」

斎藤「説明しろ」

伏見「銃を持ってた」

斎藤 「だから？」

安西 「撃たれたらヤバイじゃないですか」

斎藤 「俺の金の為に壁になれねえか？なあ？」

安西 「それは・・・」

斎藤 「こういういう時の為に使ってやってんだよ。」

役に立ってよ」

安西 「すみません」

斎藤 「撃たれた木村の治療。警察への説明。」

こここの掃除。せっかくの2000万がマイ

ナスになるなあ。どうすんだよ、これ」

伏見 「・・・」

斎藤 「伏見どうすんだよ」

伏見 「・・・盗んだ奴を探すよ」

斎藤 「探します」だろぅが！クソが」

伏見 「・・・」

伏見、ズボンの後ろに差した拳銃を握

る。

安西、伏見の腕を掴み、

安西 「俺等で絶対見つけます」

斎藤 「いつまでに」

安西 「・・・」

斎藤 「明日まで見つければ」

伏見 「・・・（加藤に）金を狙いそうな奴は

誰？」

斎藤 「頭使ってるじゃねえか。その調子でや

れよ」

斎藤 、立ち上がり、

斎藤 「加藤さん、リストを作って下さい。警

察から連絡があったら私に連絡して下さい。

明日の仕事に支障がないように掃除もして

おきます」

加藤 「はい」

斎藤 「あと、状況によっては、加藤さんにも

責任を負って頂きますよ」

斎藤 、部屋から出ていく。

○ 雑貨屋・外観（朝）

日向、雑貨屋に入っていく。

○ 同・雑貨屋・室内（同）

日向、雑貨屋に入る。

リサ「いっしょに立ち上がり、

日向「金を持ってきた」  
リサ「振り込みってシステムがあるでしょ？」

日向「聞いたいい事もある」

リサ「電話でいいでしょ」

日向「電話したくない」  
リサ「子供なの？近所から疑われんのよ。店

に合わない男が来ると」  
日向「すぐ帰る」  
日向、60万円を出す。

リサ「で？何」  
リサ、金を受け取ると数えながら、

日向「滑川って知ってるか？」  
リサ「何で知りたいのよ」



日向「仕事で一緒になった。取り分は貰ったが、仲間を裏切って、金と拳銃を持って消えた」

リサ「嘘でしょ？ どうなってるのよ」

日向「こっちが聞きたい」

リサ「他の奴は知らないの？」

日向「組んだのは、今回が初めてだったらしい」

リサ「昨日のは同業者から依頼があったのよ」

日向「同業者を紹介しろ」

リサ「無理よ。自分で管理してる奴の情報は出さないし、絶対に教えない。アンタも自分の情報が遣り取りされたら嫌でしょ」

日向「殺さないといけないな」

リサ「でしよ？ 向こうも一緒。アンタが捕まると困るから、やっってはみるけど」

リサ「ありがとう、60万円頂きます」

日向「加藤金融の事も調べられないか」

リサ「どこよそれ」

日向「そこから盗んだ」

リサ「聞きたくなかったんだけど」

日向「ヤクザの金らしい」

リサ「ああ、もう最悪」

日向「どうした？」

リサ「レジに広げていた荷物をバッグに仕舞う。」

リサ「昔から私らとヤクザとは反りが合わない

いのよ。アイツ等マジでしたっかいし。私ま

では辿り着かないだろうけど、しばらく潜

るわ」

日向「どこに」

リサ「彼氏んとこ。消えた奴と加藤金融は調

べてあげられるけど、連絡しないで。後、裏口

から出て」

日向「ああ」

日向「日向、出ていこうとする。」

リサ「調べた分の報酬は貰うわよ」

日向「考えとくよ」

リサ「日向、私の事話したら殺すから」

日向「気を付けるよ」

日向、雑貨屋から出ていく。

○同・ビル・一室（同）

伏見、滑川が落とした拳銃を眺めてい

る。

安西、入ってくる。

伏見「拳銃を見ながら）見つかった？」

安西「リストの数が多過ぎんだよ」。

伏見「いつか見つかるよ」

安西「期限は今日までだろうが！」

安西、伏見の足元に空薬莢が転がって  
いるのを見つける。

安西「撃ったのか？」

伏見「あっけなく死ぬんだね」

安西、部屋の奥を見る。下着姿の男女

が銃殺されている。

安西「何やってんだよ！誰が片付けんだよ！」

2階建てのアパート。

○同・滑川のアパート・外観（同）

滑川、金の詰まったバッグに衣類を詰  
め込み、部屋を出る。

○滑川のアパート・室内・2階（同）

リストには、滑川の顔写真と名前が載  
っている。

伏見「空き巣の前科がある。こいつに会おう」

安西「いや」

リストを見せる。

伏見「こいつは見た？」

と一枚一枚見ていく。

伏見、安西が持っているリストを取る

ればいいよ」

伏見「うるさいなあ。あいつらは後で処分す

伏見、立ち上がる。

滑川、玄関のドアを開き、外に出よう

とす。

外に、成沢と寺西が外廊下からこちら

に向かっているのが見える。

ドアを閉める滑川。

○同・アパート・室内・2階（同）

滑川、玄関の反対側の窓を開け、そこ

から逃げようとする。

下の道路には、伏見と安西が立っ

る。滑川、伏見と目が合う。

安西「ぼくねえ？」

伏見「笑顔になり」見つけた」

成沢と寺西、ドアを開き、部屋に入っ

てくる。

滑川、バッグを開き、拳銃を出そうと

するが間に合わず、成沢に組み敷かれ

る。

○同・加藤金融（同）

加藤、ソファに座る。

向かいのソファに座っている都築公

平（38）。

加藤「お呼び立てして申し訳御座いません。

お噂はかねがね聞いております」

都築「形式ばった話はなしにしましよう。誰

を消したいんですか」

加藤「私の金を盗んだ奴です」

都築「何人？」

加藤「4人か5人」

加藤、都築に200万円の札束が入っ

た封筒を差し出す。

都築、差し出された封筒を加藤へ戻し

ながら、

都築「この業界、個人事業で相場はありませ

んが、流石にこの額ではせいぜい一人分で

す」

加藤「申し訳ありません。すぐに用意いたし

ます」

加藤、立ち上がる。

都築「あと、仕事の進め方は私に一任して下

さい」

加藤「と、言いますと」

都築「そのままの意味です。クライアントに

よっては、細かく指示したがる方もいます。

ただでさえ制約のある仕事なのに、クライイ

アントの意向を加味するのは、仕事の効率

に響く」

加藤「その点は、一切お任せしますので、宜

しくお願い致します」

都築「そういつて頂けると、仕事がやりやす

い。満足頂ける結果をお持ちしますよ」

○公園・ベンチ（同）

公園のベンチに座っている我那覇（3

2）、しきりに耳に嵌めているイヤホン

を気にしている。

我那覇「……（隠しているマイクに向かっ  
て）聞こえますか？ ・ ・ 分かりました」  
日向「悪いな、急に呼び出して」  
我那覇「な、何の用だ。 ・ ・ 商品の事なら、  
直接会わなくても、いいだろう」  
日向「商品の事じゃない」  
我那覇「何が、聞きたい」  
日向「アంతアの所で、商品を買った奴、滑川  
の事を聞きたい」  
我那覇「客の話は、出来ない。信用問題に、  
関わる」  
日向「そうかも知れないが、アంతアの商品が、  
敵対相手の手に渡った可能性がある。アン  
タの所にも手が伸びるかも知れない」  
我那覇「自分の事は、自分で何とかする。恩  
を売っても、無駄だ」  
日向「小声で」おい。指示されて言ってるん  
だろ？」  
我那覇「（小声で）止めて下さい。僕は何も知



りません」

日向「参ったな」  
日向、10万円とメモを我那覇に渡し、

我那覇「商品以外の事で、呼び出さないで、  
くれ」

日向「小声で」携帯の番号だ。滑川の情報を  
聞いたら連絡しろ。金は払う」

日向、ベンチから立ち上がり、去って  
いく。

○同・ビル・一室（昼）

滑川、下着以外の服装をはぎ取られ、  
後ろ手に縛られ座っている。  
伏見、滑川のバッグを探り、拳銃を3  
丁取り出す。安西、寺西、高橋に拳銃

成沢「俺の分は？」

伏見「ないよ。だって、強盗4人だったみた  
いだから（滑川に）ねえ」

滑川「・・・」

伏見「弾ってさ、どこに売ってんの？弾がな  
くなりそうなんだ」

滑川「・・・知らない」

伏見「それ聞くまでは、殺さないから」

安西「お疲れ様です」

斎藤「おう。見つけたらしいな」

伏見「（バッグを指し）そこにあるよ」

斎藤「やるじゃねえか」

斎藤「ソファに座り、札束の金を数え  
始める。

出せよ。全員殺せ」

伏見「その事があるんだけど」

斎藤「何だ？」

伏見「金は全額取り戻したんだ。まだ探すん  
なら、報酬が欲しいんだけど」

齋藤「舐めた事言ってるじゃねえぞ。お前等

のせいで金が掛かってんだよ。逆に俺に払

えよ。それに「

齋藤「齋藤、札束を投げ出し、

齋藤「200万足りねえぞ。これで自慢げに

やった気でいんのか？あ？」

安西「金なら、あいつが使ったんすよ」

齋藤「お前が補填しろ。あのバカはどうせ殺

すんだ。金にならねえ」

安西「いや、あの」

伏見、齋藤のこめかみに拳銃を突き付

け、引金を引く。

ドン！

齋藤、頭から血を噴き出し、倒れる。

伏見「うるさいよ」

安西「何、撃ってんだよ、お前！」

伏見「え？どうせ殺すつもりだったし」

安西「組の若頭だぞ！」

伏見「嫌な奴だったじゃん。違う？」

安西「ふざけんなよ」

高橋 「さすがに、マズくないか？」

伏見 「(拳銃を弄りながら) 嫌なら抜けてもい

いけど？」

高橋 「いや・・」

安西 「マジでどうすんだよ」

伏見 「ヤクザに追われた。シマを貫おう」

安西 「考えがあんのか？」

伏見 「まずは、あいつに聞くこと聞いてかだ

ね」

伏見、滑川を見る。

○ 路地・黒いセダン・全景 (同)

エンジンを切った黒いセダンが停まっ  
ている。

○ 同・黒いセダン・車中 (同)

黒川、運転席に座り、携帯を耳に当て  
てる。呼び出し音が流れている。

黒川「・・・」

後部座席にいる坂東、金城。

坂東「出ないか？」

黒川「潜ったかもな」

黒川「おう、何か分かったか？」

日向「助手席に乗ってくる。」

黒川「何も」

日向「何も」

黒川「業者」に電話してるが、全然出ない。

黒川「鼻は利くからな。逃げたんだろ」

日向「忠告はしておいた」

日向「何か情報は？」

黒川「加藤金融もヤクザも動きがない」

坂東「どうすんだよ」

金城「逃げた方が良くないか？」

日向「拳銃の件もある。回収はしておきたい」

金城「どうせ、加藤も警察には届け出ないし、

表に出なければ、問題ないだろ」

日向「捕まるリスクは限りなくゼロにしたらい。

今回みたいないな場合は特にな」

黒川「金もなく逃げ回るのは御免だ」

○ 同・路地（同）

正面から黒いセダンのフロントに向か  
って、都築が歩いてくる。

○ 同・黒いセダン・車中（同）

黒川、都築が近付いてくるのに気づき、

黒川「誰だ？あれ」

日向「出せ」

都築、サイレンサーを付けた拳銃を出

し、黒いセダンに向けて撃つ。

パス！パス！パス！

フロントガラスに穴が開く。

○ 同・路地（同）

黒いセダン、急発進する。

都築、向かってくる黒いセダンから避

け、運転席側の側面に向かって撃つ。

パス！パス！パス！パス！

ガラスに穴が開き、後部座席側に血が

飛び散って、ガラスに血が付く。

都築、拳銃のマガジンを換えながら、

都築「一人」

黒いセダン、路地から抜け、大通りへ

出ていく

○道路・黒いセダン・車中（同）

黒川「（運転しながら）誰だよ！あれ！」

日向「殺し屋か？」

黒川「全員大丈夫か？」

坂東「金城が・・・」

金城、額を撃たれ死んでいる。

黒川「クソ！」

日向「大通りから抜けろ。この車じゃ目立つ」

○ 高架下（同）

日向、後部座席で死んでいる金城の上着のポケットを探る。財布を出すとポケットに仕舞う。日向、携帯が鳴る。表示を見るが見た事のない番号。

日向「携帯に出る」はい」

我那覇の声「あの、我那覇です」

日向「何かあったか」

○ 階段の踊り場（同）

我那覇「（小声で）あの、滑川から連絡がありまして。今日の夜、弾を購入したいと」

○ 高架下（同）

日向「場所はどこだ」



○ 階段の踊り場（同）

我那覇「（小声で）シヨツピングモデルの駐車  
場です」

○ 高架下（同）

日向「金は後で払ってやる（携帯を切る）」

黒川、指紋を拭きながら、

黒川「どうした」

日向「滑川が弾を買いにシヨツピングモデル  
に来る」

○ シヨツピングモデル・駐車場・全景（夜）

車は6割ほど駐車されている。  
人通りは多くない。

○ 同・シヨツピングモデル・駐車場・東側

（同）

伏見、金の詰まったバッグを持ってい

る。その脇には、安西、高橋、寺西。

滑川、安西に腕を掴まれ立っている。

伏見「僕とこのおじさんとで行くから」

安西「俺らは周りを見張るよ」

伏見「何かあったら連絡頂戴」

安西、滑川を押し出す。

滑川「・・・」

伏見「逃げたら殺すから」

滑川「・・・分かってるよ」

伏見「（寺西に）あっちは問題ない？」

寺西「成沢が移動させてる」

伏見「そ。じゃあ行こう」

伏見を滑川、シヨツピングモールへ向

かって歩き出す。

○同。シヨツピングモール・駐車場・南側

（同）

日向「お前は大丈夫か？」

リサの声「マジ？私に仕事を振った同業者の連絡がつかない。そこから漏れたのかも」

日向「一人殺られた」

リサの声「それならいいけど。それと、加藤がアンタを追う人を雇ったみたい」

日向「リスクが高い事はやらない」

て事ないわよね」

が血眼になっただ探してる。一緒にいるなん

リサの声「その斎藤が消えたみたい。ヤクザ

日向「それで？」

っっていう若頭が仕切ってた」

リサの声「加藤金融の事を調べたけど、斎藤はしていない」

日向「ヤバい事になってはいるが、ヤバい事

い？」

リサの声「日向？アンタ、ヤバい事してな

日向「携帯に出る」何か分かったか」

す。携帯が鳴る。

日向、周囲を気にしながら、滑川を探

伏見の両脇にヤクザ1、ヤクザ2が立  
席に座っている。  
城島組組長である城島（51）、後部座  
リムジンの後部座席の窓が下がる。  
伏見の目の前にリムジンが停まる。  
ている。  
シヨツピングの建物前に我那覇が立っ  
伏見、滑川の腕を掴み歩く。  
日向、携帯を切る。  
○同・シヨツピングモール・駐車場・（同）  
ど・・  
リサの声「好きにして。後、報酬の件だけ  
日向「引退にはまだ早い」  
ない？  
リサの声「もういいんじゃない？逃げ時じゃ  
日向「努力するよ」  
なければ、問題ないから」  
リサの声「心配してくれろの？アンタが離さ

っている。

城島「伏見、少し時間いいか？」

伏見「忙しいんだけど」

ヤクザ1「ガキが調子に乗ってんじゃねえ

ぞ！コラあ！」

城島「まあ乗れよ。すぐ終わる」

ヤクザ2、リムジンの後部座席のドア

を開く。

伏見、リムジンに乗り込む。

○リムジン・車中（同）

伏見、城島の隣に座る。

城島「斎藤の下に付いて何年になる？」

伏見「2年くらいかな」

城島「結構経ったな」

伏見「こっちも暇じゃないんだけど」

城島「斎藤が消えた。何か知らないか？」

伏見「盗まれた金を探すように言われて、金

を見つけたから渡したよ」

成沢の声「笑って」

背景は暗い。

城島愛理（18）、画面に映っている。

携帯の映像

×

×

×

伏見、携帯の画面を城島に見せる。

る。

伏見、携帯電話を出し、画面を操作す

伏見「それは、やめた方がいいよ」

ぞ」

今からお前を拷問して吐かせてもいいんだ

城島「私達はお前が何かしたと思っっている。

伏見「どういう意味？」

城島「随分余裕だな」

伏見「何してほしいの？探せばいい？」

じゃない」

城島「200万ぼっちで消えるようなバカ

伏見「いや。逃げたんじゃないの」

いか」

城島「お前と会った後に消えた。何か知らな

城島「テメエの家族を攫って殺してやる」

伏見「アンタ等と仕事してもさ、面倒だし、色々うるさいしさ」

城島「舐めんよ」

頂戴よ

伏見「取引したくてさ、アンタのシマの半分

城島「クソガキが」

伏見「何も。俺の仲間と一緒にいるだけ」

城島「娘に何した」

伏見「明日にでもこの動画送ろうと思っただけ」

城島「城島、画面に見入っている。」

よ

成沢の声「知ってるよお。ヤクザの城島でし

愛理「パパが誰か知ってるのかよ！」

成沢の声「何だよ、怖えな」

愛理「ふざけんな！」

伏見「別にいいよ。僕も殺すつもりだったか

ら。でも、僕は殺さない方がいいよ。今殺

したら、仲間が娘も殺すから」

伏見「後部座席のドアを開き、

伏見「それと、僕のいつもいるビルを調べて

もないよ。明日連絡するよ」

伏見「リムジンから出ていく。

○同・シヨッピングモール・駐車場（同）

日向、駐車場を進み、後ろを向いてい

る滑川とリムジンを見つける。携帯を

掛ける。

黒川の声「どうした」

日向「携帯に見つけた。南側の建物の前。

ヤクザと一緒にだ」

日向、携帯を切り、滑川に向かって歩

く。

リムジンから降りてくる伏見。

日向、伏見と目が合う。金が入ったバ



パス！

パス！

って拳銃を撃つ。

都築、リムジンに近付き、滑川に向か

伏見「日向を指し」あいつ？」

滑川「仲間が来た」

伏見「どこに行くの？」

見腕を掴まれる。

滑川、日向から逃げようとするが、伏

ロウ」

ヤクザ3「こっちに近寄りゃねえ、バカヤ

に行きたくて」

日向「すいません。(モールを指し)あそこ

ヤクザ3「よそ見してんじゃねえぞ！」

気付く。

滑川、声がした方を振り向き、日向に

日向「すいません」

ヤクザ3「どこ見てんだ？ コラああ！」

ツグを持っていき、日向の肩にぶつか

ッグを持っていき、日向の肩にぶつか

滑川「誰だ、お前」

る滑川に拳銃を向ける。  
都築、ヤクザ2の隣で尻餅を付いてい  
ヤクザ2、額から血を噴き出し倒れる。

パス！

撃つ。  
都築、滑川に向かいながらヤクザ2に

ドン！  
ヤクザ2、都築に向かって撃つ。

伏見、建物の近くの柱の陰に隠れる。  
リムジン、急発進して去っていく。

伏見、リムジンのフロントに隠れる。  
パス！

都築、当たらず、伏見に撃つ。

ドン！

伏見、拳銃を取りだし、都築に撃つ。

都築「邪魔だよ」

ヤクザ1、被弾し倒れる。

都築「2人目」

安西、車の陰から都築に向かって撃つ。

ドン!

ドン!

ドン!

都築、弾は当たらず、安西に向かって

撃つ。

パス!

パス!

パス!

安西、避けるために飛ぶ。近くの車の

ドアに穴が開く。

ヤクザ3、銃を都築に向ける。

都築、ヤクザ3に銃だけを向け撃つ。

パス!

パス!

ヤクザ3、被弾し仰向けに倒れる。

都築「邪魔」

都築、滑川の額を撃つ。

パス!

車  
の  
陰  
に  
隠  
れ  
て  
い  
る  
日  
向  
。  
ヤ  
ク  
ザ  
3  
の  
、  
拳  
銃  
が  
足  
元  
に  
滑  
っ  
て  
く  
る  
。  
拳  
銃  
を  
拾  
い  
、  
都  
築  
に  
向  
け  
な  
が  
ら  
移  
動  
す  
る  
。  
日  
向  
、  
別  
の  
車  
の  
陰  
に  
移  
動  
す  
る  
。  
高  
橋  
が  
拳  
銃  
を  
構  
え  
移  
動  
し  
て  
い  
る  
の  
が  
見  
え  
る  
。  
高  
橋  
に  
向  
か  
っ  
て  
撃  
つ  
。  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
高  
橋  
、  
被  
弾  
し  
倒  
れ  
る  
。  
日  
向  
、  
高  
橋  
に  
向  
か  
っ  
て  
中  
腰  
で  
移  
動  
す  
る  
。  
安  
西  
、  
日  
向  
に  
向  
か  
っ  
て  
撃  
つ  
。  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
日  
向  
を  
追  
う  
よ  
う  
に  
車  
の  
ガ  
ラ  
ス  
が  
爆  
ぜ  
る  
。  
日  
向  
、  
倒  
れ  
た  
高  
橋  
の  
傍  
ら  
に  
あ  
る  
拳  
銃  
を  
拾  
う  
。  
安  
西  
「  
高  
橋  
！  
」

高橋 「口からゴボゴボと血を吐き」あああ」

日向、高橋の拳銃をズボンに挟む。

都築、車の陰に隠れ、拳銃のマガジン

を入れ替える。

都築 「邪魔するな！」

都築、伏見のいる柱に撃つ。

パス！

パス！

伏見、柱の陰に蹲っている我那覇に

伏見 「おい！おい！」

我那覇 「伏見に気付き顔を上げる」・・・」

伏見、拳銃を我那覇に向け、

伏見 「弾を出せ！」

我那覇、コインロッカーの鍵を投げる。

伏見、受け取り、

我那覇 「そこに入ってる」

伏見、我那覇を撃つ。

ドン！

我那覇、胸を撃たれ倒れる。

寺沢、伏見の隣に座る。

寺 沢 「ヤバい。逃げようぜ」

伏 見 「安西は」

寺 沢 「分からない」

伏 見 「あいつ何者だよ」

都 築 、立ち上がり見まわす。

都 築 「逃げたかな」

車 、都築に向かって突っ込んでくる。

都 築 、車のフロントガラスを撃つが止

まらない。運転席側に飛ぶ。

車 、駐車されている別の車の側面にぶ

つかる。

都 築 、運転席の窓を撃つ。

パ ス ！

パ ス ！

パ ス ！

助手席から黒川、倒れながら降りてく

る。落ちているヤクザ2の拳銃を拾う。

立ち上がり、都築に向かって撃つ。

ド ン ！

ド ン ！

ドン！

ドン！

ドン！

都築、足に被弾しながら、車の陰に隠

れる。

パトカーのサイレン音が響く。

日向、黒川の元にやってくる。

日向「逃げるぞ」

日向、黒川に肩を貸し、駐車場から去

っていく。

○ ショッピングモール・外（同）

黒川「・・・このままじゃ、どちらにも捕まる。

黒川「・・・このままじゃ、どちらにも捕まる。

日向「その傷で動けないだろう」

黒川「シャツを上げ、脇腹の傷口を見

せる。撃たれ血が流れている。

黒川「な？」

○道路・車中（同）

都築「四人目」  
都築、窓を閉め、走り去る。

黒川、胸と腹に被弾し倒れる。

パス！

パス！

パス！

都築、黒川に銃を撃つ。

黒川「あ？」

都築「大丈夫ですか？」

乗用車、窓が下がる。

川の前に停まる。

日向と入れ替わるように、乗用車が黒

日向、駐車場に向かって歩く。

日向「待ってる」

黒川「おい。この傷見たろ」

日向「待ってる。車を取ってくる」

黒川、壁にもたれ掛かる。



日向、車中から射殺された黒川を見る。

日向「・・・」

車を発進させる。

○クラブ・VIPルーム（同）

入間（28）、女性2人を待らせ、酒を

飲んでいる。両脇に立っている武智

（28）、島田（28）。

伏見、入間の前に座る。安西、伏見の

後ろに立つ。

入間「おいおい、斎藤の所の飼いだんじゃねえ

か。何か用か？」

伏見「話があるんだ」

入間「俺にはねえけど」

伏見、拳銃をテーブルに置く。

伏見「話、出来ないかな」

入間、顎で女性2人に席を外すよう合

図する。

入間「それ、本物か？」

伏見「これで、斎藤を殺した」

入間「そりゃ、大変だ。何で商売敵の俺にそんな話す？」

伏見「城島組を潰そうと思って」

入間「勝手に騒いでてくれよ。こっちもその方が都合がいい」

伏見「手伝ってよ」

入間「何でだよ。どうせ、収集付かなくなっ  
て来たクチだろ？」

伏見「・・・」

入間「凶星かよ」

伏見「城島組のシマを半分あげるよ」

入間「そういうのは、城島組のシマを全部奪  
った後に言うんだよ」

伏見、拳銃を掴み、入間に向ける。

武智、島田、伏見に拳銃を向ける。

安西、武智と島田に交互に拳銃を向け

る。

入間「待てよ！待てよ！」

伏見「じゃあ、死んで」

入間「ここで殺し合う事ないだろ！（武智と

島田に）下せ！下せ！」

武智と島田、拳銃を下す。

伏見と安西、拳銃を下す。

入間「じゃあ、勝算はあるのか？」

伏見「城島の娘を攫った。手を出せない」

入間「エグい事やるな」

伏見「遊びじゃないんで」

入間「シマは3分の2渡せ。それで手伝って

やる」

伏見「隠れ家を用意してよ。色々狙われてて

入間「用意してやる」

伏見「また、連絡するよ」

伏見と安西、立ち上がり去っていく。

○同・加藤金融・社長室（朝）

都築、入ってくる。足を引きずってい

る。

加藤、椅子から立ち上がり、

加藤「どういう事ですか？」

都築「仕事は終わらせましたが、何か？」

加藤「城島組の組員を殺しましたよね？」

都築「ああ、あれですか。私の邪魔をしました」

加藤「私がいらぬ疑いをかけられているんで

すよ！組長を狙って差し向けたと！」

都築「あなたの複雑な人間関係まで考えて仕

事は出来ません」

加藤「そんな雑な仕事がありますか！」

加藤「な、何ですか」

都築「都築、加藤の顔を覗き込みながら、

私の仕事のやり方に口を出すつもりで

すか？」

加藤「いや・・それは・・」

都築「相手もわからない状態、標的を探し、

始まりました。今は、強盗するにも仕事を

割り振る中間業者がいるので探すのは簡単

でした。が」

加藤 「・・・」

都築 「都築、加藤から離れ、

都築 「あなたの立場が危うくなったのは残念

に思います。が、私には関係ない」

加藤 「しかし・・・」

都築 「あなたは私に仕事を依頼した。それを

やり遂げた。私にはそれ以外に問題がある

ように思えません。が？」

加藤 「あなたも城島組に狙われます。私も守

って頂けませんか？」

都築 「私は消す事が仕事です。種類が違いま

す」

加藤 「では、追加で消して頂きたい人間がい

るのですが」

都築 「前回の倍額払って下さい」

都築 「足を引きずりながら去って行く。

○ 同 ・ 車 中 ( 同 )

日向、携帯が鳴る。

日向「（携帯に出る）どうした」

リサの声「良かった。無事なのね」

日向「何とかな」

○カフエ（同）

リサ、携帯で話している。目の前のテ

ーブルには、コーヒートパソコン

ンが置いてある。

リサ「大騒ぎになってるわよ」

日向の声「しばらく、仕事が出来ないな」

リサ「捕まるよりマシでしょ」

○同・車中（同）

日向「悪いが調べてもらえないか？」

リサの声「何を？」

日向「俺等を狙った奴、斎藤の仲間、城島組」

リサの声「何するつもり？」

日向「このままじゃ、安心して眠れない。全部終わらせる」

リサの声「何言ってるの？無理よ」

日向「分かったら連絡しろ」

日向、携帯を切る。

○ビル・城島組・外観（同）

城島コンサルティングと書かれた看板が掲げられている。

○同・城島組・社長室（同）

城島、椅子に座っている。

携帯が鳴り、出る。

城島「どうした？・・・そうか。戻って来い」

携帯を切る。

伏見、人間、武智、島田、入ってくる。

拳銃を持っている。

城島「あされたように」この状況でよく来れ

たな

伏見、応接用のソファに座り、拳銃を机に置く。

伏見「言ったでしょ、今日来るって。人がい

城島「昨日の対応に追われている」

伏見「何人か殺されたもんね」

城島「お前が雇ったのか？」

伏見「まさか。そんな事しないよ。交渉でき

なくなるでしょ」

城島「娘は無事か？早く返せ」

伏見「アンタの態度次第。探しても無駄だよ」

城島「こっちは大打撃だよ。望まない死人も

出した」

伏見「殺し屋なのかな。こっちも困ってるよ」

城島「城島、人間を見て、

城島「で、売人引き連れて、脅しに来たの

か？」

伏見「シマを頂戴よ」

城島「はい、あげます」で何とかなる問題じ



「やないだろう」

伏見「組を解散して、引退すればいいじゃん」

城島「簡単に言うなよ、ガキが」

伏見「そうしないと、殺すよ」

城島「そのつもりなんだろ」

伏見「そうだね、さようなら」

伏見、机に置いた拳銃を城島に向かっ

て撃つ。

ドン！

城島、額に被弾し、倒れる。

入間「いきなり撃つなよ！」

伏見、立ち上がる。

伏見「最初からこうすれば良かったよ、行こ

う」

入間「娘はどうすんだよ」

伏見「どっかに売り飛ばすかな」

伏見、部屋から出ていく。

○ 同・クラブ・男性トイレ（夜）

寺西「があああ！」

もに刺す。

日向、ナイフを取り出し、寺西の太も

寺西「知らねえよ。」

日向「盗んだ拳銃と金はどこだ？」

寺西「テメエ・・・何者だよ。」

日向「おい、おい」

朦朧として、いる寺西の頬を叩く。

日向、寺西を便器に座らせる。意識が

で引きずる。

日向、寺西の髪を掴み、個室の便器ま

倒れる寺西。

を叩きつける。鈍い音がし、その場に

鏡が割れる。日向、洗面台に寺西の頭

を掴み、鏡に叩きつける。

日向、寺西の後ろに立つと、寺西の頭

前髪を直す寺西。

日向、トイレに入ってくる。気付かず

す。

寺西、トイレの鏡に向かい、前髪を直

日向「よく考えて答えろ」

日向の携帯が鳴る。寺西の口元を手で押さええ携帯に出る。

日向「携帯に」どうした？」

リサの声「伏見の仲間、見つかった？」

日向「携帯に」見つかった。今は忙しい」

携帯を切る。

日向、寺西の口元を抑えていた手を離

し、

日向「拳銃はどこだ？」

寺西「持ってたねえよ。仲間が持ってた

る。。」

日向「どこにいる」

寺西「町はずれの。廃ビルだよ。」

日向「連れていけ」

日向、寺西の髪を掴み、トイレから出

ていく。

○ 廃ビル・全景（同）

ポツンと建てられた廃ビル。周りには何も無い。

○同・廃ビル・一室・リビング（同）

加藤、麻袋を頭に被り、下着姿で後ろ

手に縛られ座っている。

加藤を囲むように、安西、人間、武智、

島田が立っている。

伏見、加藤の正面のソファに座ってい

る。

安西、麻袋を外す。

加藤（眩しそうに眼を細め）何だ、一体

伏見「やあ、加藤さん」

加藤「何の真似だ、一体！」

伏見「話があつてさ、殺し屋雇ったの、加藤

さんでしょ」

加藤「馬鹿な事を言うな。何で私がそんな事

を」

伏見「何となく。他にそんな事する奴がいな

いんだもん」

加藤 「雇ってない」

伏見 「隠し事はナシにしようよ。これからも

付き合いは続くんだからさ」

加藤 「ふざけるな！ 私は斎藤さんと提携して

いるだけだ。お前じゃない」

伏見 「斎藤は死んだよ。城島も」

加藤 「・・お前が殺したのか」

伏見 「まあ。シマは僕のものになったよ。だ

から、今度からは、加藤さんは僕に金を払

う」

加藤 「払うか！ どこに喧嘩を売ったのか分か

ってんのか！」

伏見 「別に加藤さんの意見はどうでもいいよ。

金は払ってもらうし、殺し屋の事を聞きた

いだけだから」

武智、加藤の頭を掴み、床に押し付け

る。

武智 「まずは、爪を剥がすか」

加藤 「待って待って！」

伏見、ソファから立ち上がり、

伏見「任せるよ。ちよつと寝るわ。安西、寺

西は？」

安西「連絡がつかない」

伏見「分かったら教えて」

伏見、隣の寝室に入る。

入間「さ、色々教えてよ」

加藤「テメエら、殺してやるからな！」

入間「人差し指から剥がせ」

武智、加藤の人差し指を無理矢理伸ば

す。

コンコン

玄関の扉がノックされる。

安西、高橋に、

安西「寺西だ」

高橋「見ってくるよ」

○同・廃ビル・非常階段（同）

日向、寺西の襟首を持ち、階段を昇る。

パス！  
パス！  
パス！  
パス！  
ングに向かっ  
て撃つ。  
都築、ドアを  
開け、入っ  
てくる。リビ  
倒れる。  
ドア越しから  
発砲され、高  
橋、被弾し

高橋、玄関へ  
向かう。

○同・廃ビル・一室・玄関（同）

日向「黙れ」

寺西「ケガして  
んだよ」

日向「早く昇  
れ」

寺西「5階」

日向「何階だ  
」

都 築 が 撃 っ た 銃 弾 が ソ フ ア や 机 に 当 た  
る 。  
安 西 、 ソ フ ア の 裏 に 隠 れ る 。 入 間 、 島  
田 を 盾 に し 、 入 り 口 側 の リ ビ ン グ の 隅  
に 隠 れ る 。  
都 築 、 リ ビ ン グ の 入 り 口 に 立 ち 、 マ ガ  
ジ ン を 入 れ 替 え る 。  
武 智 、 拳 銃 を ズ ボ ン か ら 出 す 。  
都 築 、 武 智 が 拳 銃 を 向 け る よ り 早 く 、  
拳 銃 を 撃 っ た 。  
パ ス !  
武 智 、 額 に 被 弾 し 、 そ の 場 に 倒 れ る 。  
都 築 、 腕 を 伸 ば し 、 島 田 を 撃 っ た 。  
パ ス !  
島 田 、 被 弾 し 倒 れ る 。 入 間 、 両 手 を 拳  
げ る 。



都築「そのままにいてるなら助けてやる」

安西、寝室へ飛び込む。  
都築、安西に向かって撃つ。

パス！

パス！

パス！

弾は当たらない。

入間、入り口に向かう。

都築、入間の頭を撃つ。

パス！

入間、頭に被弾し倒れる。

都築「逃げるのはナシだよ」

○同・廃ビル・一室・玄関（同）

日向、寺西を盾に都築に向かって拳銃

を撃つ。

ドン！

ドン！

ドン！

○ 同 ・ 廃 ビ ル ・ 一 室 ・ リ ビ ン グ ( 同 )

ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！  
ド  
ン  
！

な  
が  
ら  
発  
砲  
す  
る  
。  
日  
向  
、  
寺  
西  
を  
押  
し  
の  
け  
、  
都  
築  
に  
向  
か  
い

寺  
西  
、  
被  
弾  
し  
倒  
れ  
る  
。

○ 同 ・ 廃 ビ ル ・ 一 室 ・ 玄 関 ( 同 )

パ  
ス  
！  
パ  
ス  
！  
て  
撃  
つ  
。

都  
築  
、  
腹  
に  
被  
弾  
し  
な  
が  
ら  
日  
向  
に  
向  
か  
っ

○ 同 ・ 廃 ビ ル ・ 一 室 ・ リ ビ ン グ ( 同 )

○ 同 ・ 廃 ビ ル ・ 一 室 ・ 寝 室 （ 同 ）

寝 室 に 向 か う 。

銃 と マ ガ ジ ン を 拾 う 。

な っ た 拳 銃 を ズ ボ ン に 差 し 、 都 築 の 拳

日 向 、 拳 銃 の 弾 が 無 く な り 、 弾 が 無 く

ド ン ！

ド ン ！

ド ン ！

日 向 、 寝 室 の ド ア に 向 か っ て 、 撃 つ 。

加 藤 「 寝 室 を 顎 で 指 し 」 寝 室 に いる 」

日 向 「 伏 見 は ど こ だ 」

日 向 、 蹲 り 震 え て いる 加 藤 に 向 か っ て 、

都 築 、 額 に 被 弾 す る 。

ド ン ！

日 向 、 都 築 の 額 に 向 か っ て 、 撃 つ 。

都 築 「 ・ ・ 誰 だ 、 ア ン タ 」

日 向 、 都 築 に 拳 銃 を 向 け る 。

都 築 、 胸 と 腹 に 被 弾 し 倒 れ る 。

日向、寝室のドアを開く。

安西、被弾しベッドに倒れている。

伏見、ベッドの縁を背に、全裸にバス

タオルを腰に巻き、床に座っている。

日向「伏見か？」

伏見「だったら何」

日向、傍らの椅子を伏見の目の前に置

き、座る。

日向「拳銃を返せ」

伏見「アンタ、強盗でしょ」

日向「誰でもいいだろう。拳銃を返せ」

伏見「誰でも良くないでしょう。仲間を殺し

てさ

日向、伏見の右足の甲を撃つ。

伏見「足の甲を抑え、もんどりを打ちながら」

ああああ！

日向「俺の質問に答えろ」

伏見「クソ！ふざけんなよ！」

日向、伏見に拳銃を向け、

日向「早く言え」

伏見「ベッド脇の棚を指し」そこだよ！」

日向、ベッド脇の棚から拳銃を1丁取り出す。椅子に座り、

日向「他は」

伏見「倒れている安西を指し」こいつも持っている」

日向、安西を見る。

伏見、ベッド下に入れている拳銃を手

で探る。

日向、伏見の右肩を撃つ。

伏見「撃たれた肩を抑え」クソ！」

日向「つまらない事をするな」

日向、拳銃のマガジンを入れ替える。ベッドの奥で動いている何かに気付く。

日向「ベッドの奥に向かい」誰かいるのか？」

愛理、全裸にタオルケットを巻き、立ち上がる。目の周りに殴られた痣が残

っている。

日向「誰だ」

愛理「・・・城島愛理」

日向「城島組か？」

愛理「額く。日向、金の詰まったバッグが部屋の隅

にある事に気付き、日向「そこにあるバッグを持ってきてくれな

いか」

愛理「バッグを持ち、日向の元に来る。

日向「バッグを受け取り、拳銃を渡す。

日向「こいつを狙ってくれ」

愛理「伏見に拳銃を向ける。

日向「ベッド下の拳銃を拾い、バッグ

に入れる。

伏見「日向に向かって」何が欲しい？何でも

用意してやるよ」

日向「いらない」

伏見「もうシマは僕のものなんだよ。シマを

半分あげてもいい」

日向「安西の傍らに落ちている拳銃を

バッグに入れる。

日向「もっと必要ない」

伏見「じゃあ、何が欲しいの！言っつてよ！」

日向「椅子に座る。」

日向「欲しい物は、もう貰った。（愛理に）

どうする？一緒に出るか？」

愛理「（伏見に拳銃を向けたまま）まだいる」

日向「好きにしろ」

伏見「ちよっと待ってよ！」

日向「じゃあな」

日向「立ち上がり、寝室から出ていく。

伏見「絶対、殺してやるからな！」

○同・廃ビル・一室・リビング（同）

日向「寝室のドアを閉めずに、歩く。

開け放たれた寝室の中が、拳銃の閃光

と銃声が響く。

パス！

パス！

パス！

日向、ソファに座っている加藤に向か

つて、

日向「俺を知ってるか？」

加藤「・・・知らない」

日向「俺はアンタを知ってる。誰かに話せば

また会いに来る」

日向、都築を撃った拳銃を加藤に投げ

る。

加藤、拳銃を受け取る。

日向「俺とヤクザに一生追われるか、ここら

の奴らを殺して、城島の娘を救った奴にな

るか、どちらにするか考えろ」

日向、部屋から出ていく。

○同・雑貨屋・全景（朝）

リサ、雑貨屋のシャッターを開ける。

雑貨屋脇の郵便受けを開ける。

郵便受けに100万円の札束が入って



「サ  
「振  
札束  
束を  
を取  
り出  
し、  
ポ  
ケ  
ッ  
ト  
に  
仕  
舞  
う  
。  
い  
る  
。」